

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学札幌校

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

「へき地・小規模校教育実践力向上CBT問題集」 を活用した研修を実施



全国へき地教育研究連盟近畿ブロック推進協議会

全国へき地教育研究連盟加盟の近畿地区2府4県からなる近畿へき地教育研究協議会では、8月23日、和歌山県民文化会館において近畿ブロックの研究推進協議会が行われ、全国へき地教育研究連盟顧問の温泉 敏氏を講師に、「へき地・小規模校教育実践力向上CBT問題集」を活用した研修を行いました。

全国へき地教育研究連盟の研究活動

研究協議会は玉置近畿へき地教育研究協議会長の挨拶にはじまり、続いて温泉顧問の講話となりました。

温泉顧問からは、昨年度の全国大会兵庫大会のお礼、玉置洋一理事、堀図書編纂委員を選出いただいているお礼が最初にあり、講話へと移りました。



講話は全へき連の活動の概略から研究部にスポットをあて、研究部の中心となる3つの活動、長期研究推進計画、研究推進協議会、図書編纂委員会についての活動が示されました。そして、今年度からスタートした第10次5か年研究推進計画についての説明がありました。

第10次長期5か年研究推進計画（以下、第10次長計と略す）では、この長計で目指す子どもの姿とそのために学校・教師はどのようなことを進めることができるかを一緒に考える場となりました。

顧問が最初に触れたのは、第10次長計が作成された背景でした。第9次長計の継続（指導要領の継続）や「令和の日本型学校教育」「第4期教育振興計画」や現代的課題があり、そのことをふまえた第10次長計であることを話しました。

特に第10次長計を推進するうえで重要な6つのポイントについては実践の集約・発信・累積の大切さを強調しました。

第10次長計を推進するうえで重要な6つのポイント



中でも「個別最適な学び」と「協働的な学び」については、たくさんの実践を集め、発信するとともに累積を図っていくことや、へき地・小規模校の実践書として大きな価値をもつ実践書「ふるさとへの誇り」の広がりを目指していることが語られました。

「へき地・小規模校教育実践力向上CBT問題集」を活用した研修

最後に本講話のメインであるCBT問題集の話題となりました。

この問題集は、北海道教育大学と全国へき地教育研究連盟が連携協定を結んでおり、その活動の一環として、昨年度、北海道へき地・複式教育研究連盟にも協力をあおぎ、新たに開発・作成したもので、問題集ができた背景や目的、現在の取り組み等について話がありました。

以下、その内容をまとめたものです。

背景として、研修の時間の確保がなかなかできないことや教職員が研修に出づらくなっていることが年々増してきており、へき地教育振興法の趣旨にある「すべての教職員に研修機会の確保」をすることが難しくなっていること。

へき地・複式・小規模校の減少により、そのような学校に勤務してきた先生達から学ぶ機会も減少していること。さらには、へき地・複式・小規模校の複式授業や学年、学級の少ない児童生徒数での様々な取り組みにとまどいや分からなさがあること、が挙げられました。

全国へき地教育研究連盟顧問 温泉 敏氏▶



これらのことを踏まえ、このCBTの目的として、そのような状況の中でも教師の資質・能力の向上を図るためにオンラインで研修ができるようにするためであることを述べました。

CBTのメリットとしては「①短時間で効率的にできること」「②場所を選ばずにどこでもできること」をあげており、さらに、実際に取り組んできた方へのアンケートの途中経過から「③新しいことを知ったということ」があると強調していました。

また、文章記述からは、「①へき地・複式・小規模校の入門書として活用できる。」「②改めて、自分の実践を振り返ることができた。」といったこともあげられているとのことでした。

CBTのメリットとして挙げられた声

- ◇ 短時間で効率的にできる ◇ 場所を選ばずにどこでもできる
- ◇ 新しい事を知れる ◇ へき地・複式・小規模校の入門書として活用できる
- ◇ 改めて、自分の実践を振り返る事ができた

今後については、このCBTが多くの方に活用できるようにしていきたいとも意欲を見せていました。

参加者としてCBTについて聞いている方々からは、研修の機会の減少や複式授業の経験者から話を聞く機会の少なさといった現場の話題に大きくうなづく様子も見られ、やはり現場では切実感があることを伺えました。同時にオンライン研修の必要性も強く感じているようでした。

最後にスクリーンに映し出した問題には、身を乗り出す方もおり、高い関心をもって聴いていたようです。

なお、CBTや第10次長計については他のブロック研修会でも実施しており、これからの実践や研修について、改めてCBTの浸透の必要性を感じていました。

講話終了後は、次年度和歌山県で近畿ブロック研究大会が開催されることから、分科会会場校5校の説明がありました。

また、兵庫県と京都府はへき地教育研究大会があり、どちらも11月22日に開催され、貴重な実践を発信していくとのことでした。



教職意欲を高める「へき地校体験実習」が始まりました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

「へきけんニュース142号」でも紹介しましたが、今年も8月下旬から「へき地校体験実習」を実施しています。

この「へき地校体験実習」は、実践と理論を往還する本学独自の「へき地教育プログラム」の一環として実際に、へき地・小規模校の現場に赴いて、1週間から2週間の学校現場体験を行い、少人数を生かした子供理解を基本とした教育活動(個別最適な学びを引き出す)、少人数をプラスに捉えた効果的な学級経営・学習指導方法(リーダーシップとフォロアーシップの育成の協働的な学び)を経験することを目的に実施しています。



実習の様子



実習生と子供達

今年度の実習は、北海道内93校の小・中学校からの協力をいただき、227名の学生が貴重な体験をしています。

実習終了後は、概ね11月下旬ごろから各キャンパスにおいて「へき地体験実習報告会」を行っており、一過性の思い出づくりに終わらせることなく、『今後の教職意欲の向上』につなげています。



実習報告会の動画をアップしています！



下のQRコード等は今年度4月の新入生入学ガイダンス等で使用した「へき地体験実習の意義」や昨年度の「へき地体験実習報告会」の動画です。

実習および学生の様子やへき地教育プログラムの創設等の参考にして頂ければ幸いです。



<https://youtu.be/khLbB9J6-yw>

札幌校バージョン



https://youtu.be/2_IPf10m3fs

旭川校バージョン



https://youtu.be/i_p24MFTuEY

釧路校バージョン